

市政モニターアンケート主な結果について

(令和3年1月31日執行 北九州市議会議員一般選挙)

1 調査概要

調査対象者 市政モニター150人（うち、回答者数136人（回収率90.7%））

調査実施日 令和3年8月27日～令和3年9月10日

実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査

2 アンケート項目及び結果

【投票に対する意識】

○投票に行った方

投票へ行った理由は、「市政をよくするためには、投票することが大切だと思ったから」が46.2%、と最も多い。

投票する候補者を選ぶ理由としては、「候補者の施策に賛成」が46.2%、「市政を考えてくれている人」が32.1%。

また、投票する候補者を決めた時期としては、「告示日の翌日から投票日前日」が最も多かった。

○投票に行かなかった方

投票しなかった理由は、「新型コロナウイルス感染症が心配だったから」が50%、「仕事や旅行のため、時間がなかったから」が32.1%、「適当な候補者がいない（25.0%）」「候補者の人柄や政策がわからなかった」17.9%、「行くのが面倒だから（14.3%）」、「政治や選挙には関心がない（14.3%）」、「自分一人の一票で政治や暮らしに影響が出るとは思わない（10.7%）」があった。また、どういう状況になれば投票に行くかという問いには、「投票したくなる候補者や政党が出ていれば」（57.1%）、「商業施設やショッピングセンターなど、便利な場所で投票できたら」（53.6%）であった。

【投票環境】

○投票所について

投票を投票日当日にした方は約6割（57.56%）、期日前投票を利用した方は約4割（42.44%）であった。

投票所について具体的な意見を尋ねたところ、商業施設や公共交通機関ステーションへの期日前投票所の設置・増設や、全区の有権者に対応した期日前投票所の設置など、投票環境の更なる向上を望む意見があった。

自分が住む区以外での期日前投票については、35.3%の方が小倉北区で投票できれば便利であると回答。小倉北区以外の区については10%未満であった。また、住んでいる区以外は利用しないが、21.3%であった。

当日投票所については、「投票所の数が多いように思う。同じ町内でも投票所が分かれているようなので統合しても良いのでは」との意見もあった。

○投票方法について

コロナ禍で密を避けたいという点や、若者層の投票率を上げるためという点から、インターネット投票の導入を求める意見が多くあった。

【選挙の情報】

市議選があることを知ったのは、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどの報道」(64%)が最も多く、「ポスター掲示場の候補者のポスター」(46.3%)、「市政だより」(45.6%)、「候補者の選挙運動(街頭演説、選挙運動用自動車)を見たり聞いたりして」(36%)、「入場整理券(はがき)」(35.3%)の順であった。

なお、普段の情報はどうやって得ているかについては、「テレビ」(72.8%)、「スマホ・タブレット」(67.6%)が多く、次いで「新聞」(52.2%)、「パソコン」(49.3%)の順となっている。テレビは、20歳代以外の全世代で高く、スマホ・タブレットは若年層ほど高く、新聞は高齢者層ほど高くなる傾向であった。

候補者を決めるのに役立ったものとしては、「選挙公報」(52.8%)と「新聞、TV等報道」(50.9%)を回答する方が多いが、20歳代では、候補者のホームページ・SNSと回答する方が多い。

○インターネットについて

インターネット上の市議会議員選挙に関する情報については、ニュースサイト(32.1%)、候補者のSNS(21.7%)、候補者のホームページやブログ(17.0%)などを見たという回答。一方で、約4割の方が「見ていない」と回答。

インターネット上の情報を見た方は、「他の情報と同じくらい参考になった」と「ネット情報の方が参考になった」をあわせて50%の方が参考になったと回答、「ネット以外の情報の方が参考になった」と回答したのは31.0%であった。

○特設ホームページについて

市議会議員選挙の特設ホームページについては、「知っている」が34.6%、「知らなかった」が64.7%。特設ホームページの情報の利用については、「立候補者の一覧」、「投票速報・結果」、「選挙公報」が多い。

また、特設ホームページに対しては、「より詳しい候補者情報(動画、施策の比較、実績)」の掲載や、「もっと見やすくしてほしい」などの意見があった。

○選挙公報について

選挙公報については、77.9%の方が見たと回答。また、選挙公報を見た方のうち、必要な情報が「得られた」または、「やや得られた」と回答した方は55.7%であった。

【主権者教育】

効果的な主権者教育として、「小・中・高校の発達段階に合わせた教材を提供し、授業の充実を図る」(67.6%)が最も多く、次いで「市議会の議場見学や会議の傍聴」(44.1%)、「親や家族と一緒に投票所に行く」(37.5%)と回答。

【選挙啓発】

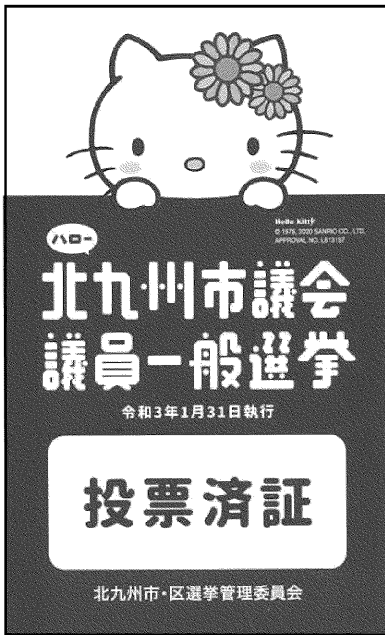
若者を含め政治に無関心な方への働きかけとして、学校教育の充実を求める意見や、SNSを通じた選挙や政治に関する情報発信などの意見があった。

また、選挙に行ったことによる何らかのメリットを付けるのが良いといった意見のほか、お金のかからない選挙制度にして若者が立候補しやすいようにすれば、若い有権者の興味を引くとの意見があった。

現在の投票済証のデザイン

R3.1 市議会議員選挙

【おもて】



【うら】

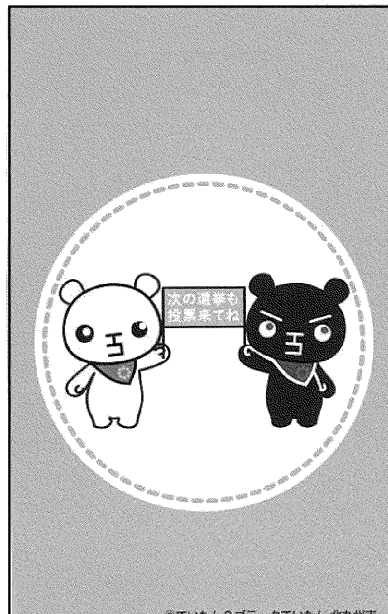


R3.4 福岡県知事選挙

【おもて】



【うら】

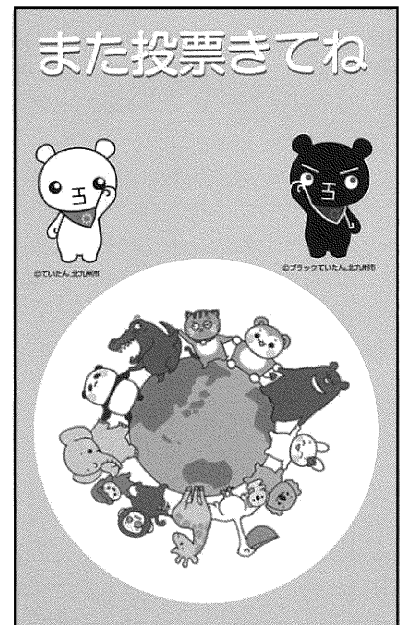


R3.10 衆議院議員総選挙

【おもて】



【うら】



18歳選挙権に関する意識調査の概要【総務省】(抜粋)

○調査対象

全国の満18歳～20歳の男女個人3,000人

○調査方法

インターネット調査法

○調査期間

平成28年10月20日～10月31日

■投票した後の感想は、「投票は簡単だった」が最も多い。

<上位3項目> ※複数回答

- ①投票は簡単だった 38.6%
- ②自分で考えて一票を投じることができたので良かった 32.5%
- ③有権者としての責任を感じた 30.0%

■投票に行った人で、今後も投票に行こうと思う(※)と回答した人は93.7%。

- ①毎回行こうと思う 47.8%
- ②できるだけ行こうと思う 40.9%
- ③関心が持てる選挙だけ行こうと思う 5.0%
- ④積極的に行こうとは思わない 3.3%

※「行こうと思う」には、「今後は毎回行こうと思う」、「できるだけ行こうと思う」、「関心が持てる選挙だけ行こうと思う」を含む。

■投票に行かなかった理由として、「今住んでいる市区町村で投票することができなかったから」が最も多く、年齢別では18歳よりも19歳の割合が高い。

<上位3項目> ※複数回答

- ①今住んでいる市区町村で投票することができなかったから 21.7%
- ②選挙にあまり関心がなかったから 19.4%
- ③投票に行くのが面倒だったから 16.1%

<①の主な回答割合>

【年齢別】

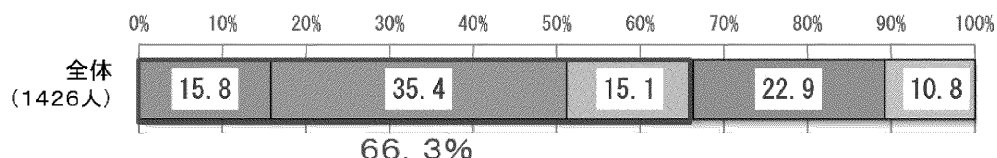
18歳(15.6%)より19歳(27.5%)が10ポイント以上高い。

【地域別】

「関東」(19.6%)や「中部」(19.4%)より、「中国・四国」(25.9%)や「九州・沖縄」(26.8%)が5ポイント以上高い。

■投票に行かなかった人の今後の投票意向は、今後は投票に行こうと思う(※)と回答した人は66.3%。

■今後は毎回行こうと思う ■できるだけ行こうと思う ■関心が持てる選挙だけ行こうと思う ■積極的に行こうとは思わない ■わからない



※行こうと思うには、「今後は毎回行こうと思う」、「できるだけ行こうと思う」、「関心が持てる選挙だけ行こうと思う」を含む。以下同じ。